

季刊せいいてん第127号 令和元年6月1日発行(3・6・9・12月 各1日発行)

季刊せいいてんno.127

2019夏の号

●浄土真宗聖典の学習誌●

特集

ふりかえる平成の 議論・新説・新発見



真宗〈悪人〉伝／善信房親鸞(一) 幸せてなんだろう／〈いつの間にか〉の倫理
『唯信鈔文意』／誰もえらび捨てない 「正信偈」／法然聖人③ ほとけのいる景色／千年の闇室

NO.127

季刊
せいてん

2019. 6. 1 (夏の号)

特集

「ふりかえる 平成の議論・新説・新発見」…… 編集室 3

「親鸞聖人のお聖教のご文が消えた？

—「弥陀如来名号徳」の全体像を求めて」…………… 塚本一真 5

「親鸞聖人は〈現世での往生〉〈この世での往生成仏〉を説いたのか」、

「まだまだあります 分野別 平成の新説・新発見」…………… 編集室 44

はじめの一步Ⅰ

真宗〈悪人〉伝⑬

善信房親鸞(一)…………… 井上見淳 9

はじめの一步Ⅱ

幸せってなんだろう—悪人正機の倫理学⑩

〈いつの間にか〉の倫理

—自由意志から仏教と浄土真宗について考える…………… 藤丸智雄 16

聖典セミナー

『唯信鈔文意』⑥ —誰もえらび捨てない救い…………… 安藤光慈 22

せいてん誌上講演

「正信偈」⑳ 法然聖人(3) 回心の内景…………… 梯 實圓 30

ほとけのいる景色—アジャンター石窟寺院 ②

「千年の闇室」…………… 打本和音 40

せいてん書道教室 ③

「横長・縦長に書く文字」…………… 角屋あづさ 54

法語随想 ②

「弥陀成仏のこのかたは……」…………… 舟川智也 56

読者のページ せいてん質問箱(終)

お釈迦さまが遺した最後のこととは？… 岡本健資 58

人ひとみな ナモアミダブツ in カリフォルニア②

「クリスチャン・ブディズム？」…………… 桑原浄信 63

お寺はいま 京都若手僧侶法話勉強会・こんばす

老若男女に伝わる法話…………… 64

西の空 心に響くことば

つの…………… 榎本栄一 67

文中写真／編集室

お読みになる前に…文中に(〇〇頁)とあるのは『註釈版聖典(第二版)』、(七祖〇〇頁)とあるのは『註釈版聖典 七祖篇』のページ数を指しています。



特集

ふりかえる平成の 議論・新説・新発見



平成が終わり令和に入って一ヶ月が過ぎました。仏法に照らして考えれば、改元を境にして急に何かが変わるわけではなく、むしろ改元があってもなくても、すべてのことは常に変化し続けています。ですが、節目で区切るのが私たちにとって分かりやすいのも確か。実は平成の間には、浄土真宗を学ぶ上で大切な発見がたくさんありました。せいてん流に平成をふりかえてみましょう。

特集目次

親鸞聖人と恵信尼さまの

出会いは…… 編集室…… P3

親鸞聖人のお聖教の

「ご文が消えた?」 塚本一真… P5

親鸞聖人は「現世での往生」

「この世での往生成仏」
を説いたのか

編集室…… P44

まだまだあります

分野別平成の新説・新発見

編集室…… P48

親鸞聖人と恵信尼さまの出会いは……

—結婚に関する新たな定説

基本的な古典文法でわかる

「親鸞聖人と恵信尼さまは京都で出会って結婚された」。近年、この説が定説化しつつあります。以前は越後（新潟）で結婚されたという説が定説でしたが、そもそも親鸞聖人の結婚については史料が乏しく、越後説についても確固たる根拠があったわけではありませんでした。そんな中、聖人の結婚について説得力のある説が出されたのです。といっても、新たな史料が発見されたというわけではなく、その論証は、既に知られていた史料を丁寧に読み込むという方法でなされました。しかもそれは基本的な古典文法の知識で理解できるとも明快な論理でした。

特集のトップは、思わず膝を打つ「京都説」の研究をご紹介します。

根拠は恵信尼さまのお手紙に！

まずは、結婚に関連する親鸞聖人の前半生の流れをざっとおさらいです。

- ・比叡山での修行（9歳〜29歳）
 - ・京都市中の六角堂に参籠（おこもり）
 - ・夢のお告げの導きによって京都東山吉水の法然聖人の草庵へ（29歳）
 - ・法然聖人のもとへ百日間通いつめて教えを聞き、お弟子となる（29歳）
 - ・念仏弾圧により越後に流罪（35歳）
- さて、親鸞聖人の結婚については、これまで主に二つの説がありました。一つは、聖人は京都で恵信尼さま以外の方と結婚しており、流罪の後、越後で恵信尼さまと再婚したという説。もう一つは、聖人は京都では独身であり、越後で恵信尼さまと結婚したという説。いずれも、お二人の出会いを越後とす

るものでした。

この状況を動かしたのが、平成九（一九九七）年に発表された山本根先生（いづみね）の「恵信尼文書再読」（『行信字報』一〇〇）でした。山本先生は、古田武彦先生の研究（わたしひとりの親鸞、242頁）を元に、恵信尼さまのお手紙に使われた助動詞「き」と「けり」の用法を子細に検討します。「き」と「けり」はどちらも過去を表す助動詞なのですが、「き」が自分が直接経験したことを表す（直接過去）のに対し、「けり」が他から伝え聞いたことを表す（間接過去）という違いがあります。山本先生は検討の末、恵信尼さまが、例外なく、「き」を直接過去、「けり」を間接過去の意味で用いられていることを明らかにされたのです。

そして、この事実を踏まえて、「比叡山↓六角堂↓吉水草庵」という聖人のご事跡を記した恵信尼さまのお手紙を読むと、お二人の出会いの場所がわかるのです。以下、「けり」に一重線、「き」に二重線をひいたお手紙の原文と、現代語訳をあげました。二つの助動詞に注目し



て読んでみましょう。「ける」と「けれ」は「けり」の連体形と已然形、「し」と「しか」は「ぎ」の連体形と已然形です。

山を出でて、六角堂に百日籠らせたまひて、後世をいのらせたまひけるに、九十五日のあか月、聖徳太子の文を結びて、示現にあづからせたまひて候ひければ、やがてそのあか月出でさせたまひて、後世のたすからんずる縁にあひまゐらせんと、たづねまゐらせて、法然上人にあひまゐらせて、また六角堂に百日籠らせたまひて候ひけるやうに、また百か日、降るにも照るにも、いかなるたいふにも、まゐりてありしに、ただ後世のことは、よき人にもあしきにも、おなじやうに、生死出づべき道をば、ただ一すぢに仰せられ候ひしを、うけたまはりさだめて候ひしかば、……

(八一頁)

(聖人は比叡山を下りて六角堂に百日間こもり、来世の救いを求めて祈っておられたところ、九十五日の明け方に、夢の中に聖徳太子が現れてお言葉をお示しくされました。それで、すぐに六角堂を出て、来世に救われる教えを求め、法然聖人にお会いになりました。そこで、六角堂にこもったように、

また百日間、雨の降る日も晴れた日も、どんなに風の強い日もお通いになったのです。そして、ただ来世の救いについては、善人にも悪人にも同じように、迷いの世界を離れることのできる道を、ただひとすぢに仰せになっていた聖人のお言葉をお聞きして、しっかりと受けとめられました。

ここで恵信尼さまは、親鸞聖人の六角堂参籠には間接過去の「けり」を、吉水草庵へ通う記述には直接過去の「ぎ」を用いておられます。したがって、六角堂参籠を恵信尼さまは直接見ておられず(後に聞いた)、吉水の草庵での様子については、実際に見ておられることがわかります。したがって、お二人の出会いが京都ということになるのです。

ただ、ここで問題となるのが、流罪となった者が妻と一緒に流罪地に赴くことは可能なのかという点です。これまで京都説がとられてこなかった理由の一つにこの問題がありました。しかしこの問題も、当時の法律の、「流人は、流罪先に妻を同伴しなければならぬ」「(獄令)第十一条」という条項の存在が指摘されたことで解決されました(平松令三『聖典セミナー親鸞聖人絵伝』、平成九年)。

季刊せいいてん

バックナンバーのご案内 (在庫分)

125号(冬の号)2018年12月1日

- はじめの一步I
真宗(悪人)伝⑩(井上見淳)
「金子大榮(中)」
- はじめの一步II
幸せてなんだろう⑧(藤丸智雄)
「最大多数の最大幸福(1)」
- 聖典セミナー
「唯信鈔文意」④(安藤光慈)
「〈今〉の救い」
- せいいてん誌上講演
「正信偈」②(梯實圓)
「法然聖人(1)父の遺言を胸に」
- もう1人の親鸞(終)
「親鸞聖人ご臨終の言葉」(黒田義道)



表紙 ●特集「空(空)がわからない」より

◆『季刊せいいてん』バックナンバーのご案内(在庫分)



表紙 ●特集「自死と念仏者」より

- はじめの一步I
真宗(悪人)伝⑩(井上見淳)
「顕如と教如(中)」
- はじめの一步II
幸せてなんだろう④(藤丸智雄)
「嘘は悪なのか?」
- 聖典セミナー
「歎異抄」(終)(矢田了章)
「後序—たまはりたる信心」
- せいいてん誌上講演
「正信偈」②(梯實圓)
「善導大師(3)仏様に認められて生きる」
- もう1人の親鸞④
「玉日姫と恵信尼さま」(黒田義道)

121号(冬の号)2017年12月1日

126号(春の号)2019年3月1日

- はじめの一步I
真宗(悪人)伝⑩(井上見淳)
「金子大榮(下)」
- はじめの一步II
幸せてなんだろう⑨(藤丸智雄)
「十方の慈悲と隣人愛」
- 聖典セミナー
「唯信鈔文意」⑤(安藤光慈)
「如来のはたき」
- せいいてん誌上講演
「正信偈」②(梯實圓)
「法然聖人(2)四十三歳の回心」
- ほとけのいる景色(新)
「ようこそジャンター石庵へ」(打本和音)



表紙 ●特集「信心がわからない」より



表紙 ●特集「わが家で解決 セルフ質問箱のすすめ」より

- はじめの一步I
真宗(悪人)伝⑩(井上見淳)「顕如と教如(下)」
- はじめの一步II
幸せてなんだろう⑤(藤丸智雄)
「夜空ノムコウ」
- 聖典セミナー
「唯信鈔文意」①(安藤光慈)
「他力信心の法義」
- せいいてん誌上講演
「正信偈」②(梯實圓)
「善導大師(4)阿弥陀仏に会う」
- もう1人の親鸞⑤
「幽霊の救い」(黒田義道)

122号(春の号)2018年3月1日

●これまでの主な特集記事●

- No. 100……100号記念 勸学和上に聞く
①聖教の真実性と布教伝道について 梯實圓
②聖典編集事業と「季刊せいいてん」
徳永一道・内藤知康・佐々木恵精
- No. 101……ヴィジュアル大乘仏教～北伝仏教の旅～
- No. 102……飛雲閣と聚楽第一聚楽第の遺構が否か
- No. 121……自死と念仏者
- No. 122……わが家で解決 セルフ質問箱のすすめ
- No. 123……お盆、その前に

*『季刊せいいてん』誌のバックナンバーは部数に限りがございますので、品切れの場合はご容赦願います。

お申し込み・お問い合わせは
本願寺出版社

☎ 0120-464-583
FAX 075-341-7753

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル
1冊700円(税・送料込)

商品に払込取扱票を同梱しますので、郵便局もしくはコンビニエンスストアで料金を払い込みください。



表紙 ●特集「お盆、その前に」より

- はじめの一步I
真宗(悪人)伝⑩(井上見淳)
「弁円」
- はじめの一步II
幸せてなんだろう⑥(藤丸智雄)
「欲望は悪か」
- 聖典セミナー
「唯信鈔文意」②(安藤光慈)
「名号の撰化」
- せいいてん誌上講演
「正信偈」②(梯實圓)
「源信和尚(1)日本浄土教の黎明」
- もう1人の親鸞⑥
「枕石の物語」(黒田義道)

123号(夏の号)2018年6月1日



表紙 ●特集「(名人)たちの聖典」より

- はじめの一步I
真宗(悪人)伝⑩(井上見淳)
「金子大榮(上)」
- はじめの一步II
幸せてなんだろう⑦(藤丸智雄)
「信仰という幸福について」
- 聖典セミナー
「唯信鈔文意」③(安藤光慈)
「〈自〉であらわされる他力」
- せいいてん誌上講演
「正信偈」③(梯實圓)
「源信和尚(2)仏さまに背きながら」
- もう1人の親鸞⑦
「一切経校合」(黒田義道)

124号(秋の号)2018年9月1日

季刊せいてん 定期購読のご案内

*本誌を毎号入手していただくために定期購読をお勧めします。

●年間購読料 2,800円 (税・送料込み)

▲年4回 (3・6・9・12の各月) 発行

*1部からでもお求めになれます。

●1部 700円 (税・送料込み)

※同じ号を一括して多部数お申し込みいただいた場合には、
部数割引させていただきます。(10部以上10%・50部以上20%)

お申し込みは↓

本願寺出版社  0120-464-583 FAX 075-341-7753
よむよ ごわさん
〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル <http://hongwanji-shuppan.com/>

編 集 後 記

◆今回の特集のアイデア、実は学生さんからもらったものです。社会のタイムリーな話題に乗るといのは本誌としては新鮮な試みでしたが、結果的にはいつも以上に聖典色の濃厚な特集になりました。表紙は、令和(O18)に入ったところでふり返ると、いろいろな大発見があったことに気付く旅人の図です。鶴は鶴丸紋ということで本願寺の、二羽のフクロウは学者の議論の、山々の絶景はその他もろもろの大発見の喩えとなっております。(N)

◆4月末日ラジオで、「平成という時代は、昭和的なものがごとく解体されていった時代」と語っていました。昭和生まれの私にとって平成は、自己変革の連続でした。

「お寺はいま」で取材した若手僧侶の皆さんは、平成という時

代のなかで、「お寺や僧侶に求められているもの」の変化に、実に柔軟に対応されていたことがとても印象的でした。

◆岡本健資先生による「せいてん質問箱」の連載が終わります。お釈迦さまの最後の言葉についての質問で締めくくっていただきました。あらためて、じっくりと味わいたいと思います。(S)

◆10連休中、文章技術に関する書籍を読んでいましたら、「理解がふかければふかいほど、わかりやすい表現でどんな高度な内容も語れるはずである」という吉本隆明さんの言葉に出会いました。とてつもなく難しいことだと思いつつも、編集者として、僧侶として、肝に銘じるべき言葉だと思いました。教えをわかりやすくお伝えしていくために、まず自らが深く学ぶ。令和の目標といたします。(D)

投稿募集

◆本誌に対するご感想やご意見、聖典講座についてのご質問など、ふるってご投稿ください。皆様からのお便りをお待ちしております。
◆あて先は、「〒600-8501 浄土真宗本願寺派総合研究所 季刊せいてん編集室」とご明記ください。
◆お送りいただきました原稿はお返しできません。◆掲載分には記念品をお送りいたします。

季刊せいてん

NO.127 令和元(2019)年6月1日発行

編 集

浄土真宗本願寺派
総合研究所

〒600-8349

京都市下京区堺町92番地

発 行

本願寺出版社

(浄土真宗本願寺派)

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル

本願寺門前町60番地

電話 075-371-4171